

2023年度第1学期始業式校長挨拶（230410）

皆さんおはようございます。

新入生も加わって、2023年度が始まりました。こうして大講堂で年度初めの始業式を行えるのも2019年以来、4年ぶりのことです。今年度一年よろしく申し上げます。

さて、いくつかのお話をする前に、この春休みの生徒諸君の活躍についてご紹介をします。

昨年3月の終業式に予選突破をご紹介した、情報セキュリティの力を競う「第2回 Cyber Sakura」決勝ラウンドが、3月25日に福井県鯖江市で開催され、当時は中3生、現高1生の「チーム白雉」が見事優勝となりました。これはすごい。競技時間は3時間半。仮想コンピュータ上でセキュリティの脆弱性を見つけ、それを解消することで得点を競う競技ですが、専門的な知識技術に加え、チームワークが試されたと思います。おめでとうございます。

それでは、私のほうから大きく三つの話をします。一つ目は新型コロナウイルスに関する話。三学期終業式で予告したように教員の働き方改革の話も含めてお話しします。二つ目は、これも同じく予告したように、新しい進級判定基準のお話。そして三つ目が、今年度が武蔵創立101年目を迎えますので、そのことについての意気込みについてお話をします。少々長くなりますが、いずれも重要なことですので、よく聞いてください。

一つ目は新型コロナウイルスについてです。

コロナへの対応もいよいよ新しい段階になります。正式には5月のゴールデンウィーク明けにコロナは現在の感染症の2類扱いからインフルエンザと同様の5類扱いになりますので、それまではいわば移行期間となりますが、コロナ禍で三年間かかっていた制限も基本的には解消していきたいと思えます。ただしいくつか継承する点や留意する点もありますので、順次お話をしていきます。

まずマスクの着用です。マスクの着用は任意。個々人の判断に任せます。自分で考えてください。

ただね。私はコロナ対応ではずっと安全・安心の視点から考えるという話を言い続けてきました。安全というのは、ある程度客観的な基準から見たその時々々の基準です。今回政府も基本的にマスクは着用しなくてよいと言っています。一方安心は、人の心に関わるものですので、不安感ゼロから100まで幅があります。安全基準とは言うけれど、安心基

準とは言わない。したがって、マスクを外して安全だよと言われても、個人の受け取り方、安心感・不安感は様々だということです。

マスクというのは、「人にうつしちゃいけない」という迷惑をかけないようにしたいという意識とともに、「人からうつされたくない」という予防の意識からされます。このへんは個々人の健康状況や、例えば密集空間か屋外かなど、その場の環境によって変わってきますので、そのへんを考えたうえで、個々人で判断してもらえればと思います。そして大事なことは、マスクの着脱について決して強要しない。つけろとか、外せとか、それを無理強いしたり、そのことに対して差別的な発言をしたりしないように注意してほしいと思います。

検温器もすべて撤去しました。ただ、毎朝の健康観察は引き続きしっかりしてください。具合が悪ければ絶対に無理をしないというのは大前提です。なお、手洗いの消毒液は当面の間、引き続き設置します。宜しくお願いします。

次に下校時刻についてです。これはコロナ禍での下校時刻を引き続き継続します。平常授業時の一般生徒の最終下校時刻は月から金までは18時、土曜日は17時とします。ただし、高校生の部活動で顧問の立ち合いのもと、顧問の許可を受けた場合は下校時刻を月から金までは19時、土曜日は18時まで延長できることとします。その場合は、所定の掲示板、教師控室入口前通路の掲示板ですが、残留の旨の掲示を行います。これらは従来通りです。

実はこの決定は、先生方の働き方改革に関連しています。武蔵の部活動は生徒の自主性・主体性を尊重してきましたが、やはりいざというときには教員が責任を負います。終業式でお話したとおり、部活動顧問の先生方は、コロナ禍において、ずっと活動に付き合う先生もいましたし、活動には付き合わなくても、例えば怪我をした、何かしら事故が起きたという不測の事態に備えて、校内に待機していました。でも、先生方にも生活があります。無制限に学校にいることを校長としても先生方に求めることはできません。生徒諸君から見れば、自主的な活動なのでいくらでも学校にいたいと思うかもしれませんが、教員の働き方改革の視点からはそうはいきません。

したがって、最終下校時刻はコロナ禍での制限を維持するとともに、先生方の働き方が過重にならないように、部活動の顧問の在り方についても二種類に分けました。

まずAグループの部活動は顧問の先生が活動にずっと付き合うか、あるいは付き合えなくても放課後必ず校内にいるというタイプです。

具体的な部活動としては、今年度はサッカー部、野球部、水泳部、高校バスケ部、卓球部、硬式テニス部、音楽部、化学部、生物部が該当します。

次に B グループの部活動は顧問の先生が放課後付き合うこともあるけれど、そうでないことも多い。放課後何か不測の事態や困ったことが起きたら、「日直」の先生を毎日交代で置きますので、「日直」の先生に連絡・相談してもらう仕組みです。

具体的には、今年度、中学バスケ部、バレー部、軟式テニス部、剣道部、陸上部、山岳部、合気道部、物理部、気象部、太陽観測部、地学部、ESS、鉄道研究部、民族文化部、将棋部、ジャグリング部、奇術部、軽音楽同好会、文芸同好会、数学研究会、卓上遊戯同好会、書道同好会、報道班がこれに当たります。

毎日の日直の先生の名前は、教師控室入口のガラスのところに見えるように、ホワイトボードに書いておきます。併せて日直の先生が持つ緊急携帯番号も各所に掲示しておきますので、それを確認してください。

緊急時の連絡や対応方法については、各部・同好会ごとに、顧問の先生とよく連絡を取りあって、しっかり対応できるよう意思疎通を図っておいてください。ご理解ご協力をよろしくお願いします。

次に授業時間内の校外の外出についてです。コロナ禍においては、感染予防対策の観点から、全面的に禁止をしていました。実はコロナ前においては、武蔵ではこのことについて良いとも悪いともいっていませんでした。大学生と同じ扱いで、皆さんの良識に任せていました。今後についてですが、授業時間内の校外の外出は、外出時の様々なリスクと責任を考慮して、中学生は引き続き禁止にします。高校生については言及しませんが、これは外出していいよと奨励することでは決してありません。何よりも学校での授業が第一ですので、外出によって例えば授業に遅刻するなど支障が出てはなりませんし、また万が一、校外で何かしら事故が起きたときには自己責任になります。武蔵は、ある程度、皆さんの自主性、主体性を尊重して、大人扱いにしてきたという伝統・文化があります。高校生については、そのことを自覚して自らの行動に責任をもってほしいと思います。中学生は、まだ成長途上ですので、そのへんのリスク管理や責任は難しいと判断していますので、授業時間中は学校の外に出ないようにしてください。併せて、大学のキャンパスについても、授業などで利用する場合あるいは図書館など共有スペースは構いませんが、不要な場所には出入りしないでほしいと思います。武蔵生で、大学の建物を探検したり、大学生が使うフットサルコートなどに入ったりして、大学に迷惑を掛けた事例がこれまでもありました。「公共心」を心掛けて欲しいと思います。

その他、食堂の食事はこれまでお弁当がメインでしたが、これからはすべてのメニューにおいて集会場での飲食のみとなります。また、校内各所にある冷水器も使用禁止として

いましたが、これもメンテナンスを行ない、使用禁止を解除します。その他、教室でコロナへの対策についての生徒・保護者向けの資料を配りますので、組主任の先生の指示にしたがってください。宜しく申し上げます。

二つ目の大きなお話は、3学期に予告した新たな進級判定基準についてです。

新しく入った中学生には全くわからないと思いますが、小学校と違って、学校の成績がものすごく悪かったり、欠席がものすごく多くなったりすると、進級や卒業ができないということについてです。

これも三学期の終業式でお話ししたように、まじめに普通に学校生活を送っている生徒にとっては、ほとんど関係のないことですが、コロナ禍もあって、欠席や遅刻、欠課がかさんだりした生徒も多くなっている現状がありました。

やむをえない理由がある場合は、寛大におおらかに見ていく必要はありますが、一方で、理由のつかないことについては、ある意味では、厳しくしっかりと対応していくことが必要だということから、その対応について、先生方で一年間かけて検討してきました。

その結果ですが、先生方が先生方内部で用いる細かな判定基準は改定をしましたが、皆さんに公表する大きな部分はそれほど変わってはいません。それは、新入生のときにもらうこの「学校生活の手引き」に載っています。しかし若干、変更もありましたので、今年度からその最新版を Google Classroom にて配信し、いつでも確認できるようにしたいと思います。

具体的に最新版を読んでみます。

「学年末に判定会議があり、その学年での合格・不合格を判定します。合格・不合格の判定については、判定基準がありますが、次のような人以外は心配りません。

- 全科目の平均点が6点にならない人
- 平均点は6点以上であっても、5以下の科目がたくさんある人
- 正当な理由のない欠席・結果・遅刻が多い人

正当な理由とは、比較的大きな病気、怪我による通院、交通機関の大幅な遅延などです。

と記述されています。

このうち特に注意してほしいことは、欠席・欠課・遅刻の扱いについてです。

まず、遅刻についてですが、寝坊はもちろんのこと、交通機関から遅延証明の出ない程度の交通遅延による遅刻は正当な理由には入らないこととします。電車やバスの遅延も想定して移動するのは、一般社会では当たり前のことです。なお、今年度から交通遅延の遅

刻や欠課の場合は、交通機関から Web 上で発行される遅延証明、直接紙で発行してくれるところもあるようですが、その遅刻証明を添えて、後日で結構ですが、保護者証明のある書類を提出した場合のみ、取り消しができるというルールにします。したがって、「電車が遅れました」と口頭で言い訳をしても、それだけでは通用しません。

それから、正当な理由のない欠席・遅刻・欠課についてですが、正当な理由のない欠席の上限の目安は年間で20日、遅刻や欠課は15回と考えています。これを越えると先生方から強い指導が入ります。以前は、生徒によっては、「遅刻したけれど、欠席はまだ少ない。遅刻が15回を越えそうなので休んじゃえ」という生徒もいたと聞いています。とんでもありません。欠課・遅刻より正当な理由のない欠席のほうが問題だと当然私たちは考え、今後はそうした対応・指導をしていきたいと思えます。さらに、理由のない欠席が30日を越える場合は、その年度の進級基準は「不合格」とします。それが越えてはならない「レッドライン」です。ただし、先ほども言いましたが、心身の不調などやむをえない理由がある場合は、寛大におおらかに見ていくことは重要だと認識しています。体調不良や、気分がすぐれないなどの時は、長引く前に、異変を早めに、保護者はもとより、教科担当の先生、組主任の先生や保健室の先生に相談してみてください。適切に対応していきます。

合格・不合格判定に関して、嫌なことを言いましたが、普通にやっていたら問題はありません。一方、これまでは、とりわけ最上級生になると自分本位に考えて、平気で授業をサボる生徒も「一部にはいた」と聞いています。今後はそうした態度には厳格に対応していきたいと考えています。

また、出欠に関連して、今年度から家庭から学校への欠席連絡の方法が変わります。今までは保護者の方からの電話連絡によっていましたが、今年度から blend という連絡ツールによって保護者から連絡を入れていただくことになりました。また家庭への学校からの様々な連絡もこれまではフェアキャストというツールを使っていましたが、これも blend というツールが変わります。今後、武蔵でも学校のDX化を目指しており、例えばこれは来年度以降になりますが、いわゆる出席簿も廃止し、全部先生方の持っているタブレット上で操作できるようなことも計画しています。そうすると安易な出席簿の修正というものもなくなってきます。厳格な運用となりますので、より公正・便利になると思えます。留意しておいてください。

もう一点、確認事項ですが、昨年度の高1、中1から皆勤賞、精勤賞表彰は段階的に廃止することとしています。したがって高校生については今年度の高3生、中学生については今年度の中3生が最後の表彰年度になります。これは、「何が何でも休まない」という

価値観が時代にあわなくなっている中で、結果としての皆勤は良いかもしれないけれど、そのことを目標として「無理をする」という発想は良くないのではないかということによります。改めて、確認をさせていただきました。

最後に三つ目のお話です。

武蔵は昨年度創立百周年を迎え、本年度はいよいよ101年目を踏み出すことになりました。これを機に、学校として『新生武蔵』という旗を掲げています。これは次の百年を踏み出すに当たって、これまでの武蔵の良さ・強み、例えば豊かな自然環境、学問や研究へのこだわり、少人数ならではの生徒間、先生・生徒間の距離感の近さ、そうした中で自由にのびのびと育っていく武蔵生、そうしたものを捨てることなく、それを生かしながら、さらに時代にあわせて進化していこうというものです。

現代は本当に先行き不透明な時代です。昨日の入学式でも、中1生諸君や高1生諸君には「人類史の曲がり角」という話をしましたが、今時代は大きな転換点を迎えており、様々な課題を解決するには、独創的なアイデアと幅広い柔軟性が求められています。この武蔵が、「さすが武蔵ってすごいなあ」って評価されたり、将来皆さんの中から独創的で柔軟な、そして真に信頼され尊敬される人材を輩出できたりするかは、ひとえに皆さんの力にかかっています。『新生武蔵』の歴史はまさに君たちが作っていくものであり、武蔵生諸君ならできると私は確信しています。

そこで101年目に踏み出す第一歩として、急ぎよですが、今週の14日の金曜日、午後の授業は申し訳ありませんがカットさせていただいて、創立記念講演会を実施することにいたしました。

実は4月17日は武蔵の創立記念日で、かつてはその日に「記念式」を行ない、卒業生などによる記念講演会を実施していました。いつしかその伝統は消えていきましたが、創立101年目を機に復活したいと思います。創立記念講演会と称して、皆さんの視点をあげてもらえるような、また、心を奮い立たせてもらえるような方をお呼びしたいと考えました。

記念すべき第1回の講師は本校70期卒の馬淵俊介さんです。名前を覚えていますか。中2以上の生徒は、昨年度の二学期の始業式で、創立百周年記念式典に寄せられたビデオメッセージを流したことを覚えていると思います。

馬淵さんは、まだ40代の方ですが、まさに世界雄飛、東西文化融合の体現者としてグローバルに活躍されています。JICA、マッキンゼー、世界銀行、ビル&メリンダゲイツ財団などを経て、現在はスイスのグローバルファンドの保健システム部長の職にありま

す。

その馬淵さんが、何と4月12日に行なわれる東京大学の入学式で、来賓祝辞を行なうスピーカーとして招かれ、6年ぶりに帰国されることになりました。これは本当に凄いことですし、武蔵関係者として誇りに思います。そして、せっかく帰国するんだからということで、母校に来てくれることになりました。

そこでお願いです。馬淵さんは後輩と対話をすることを楽しみにしています。ぜひ14日は、馬淵さんに色々なことを質問して、今の武蔵生の素晴らしさとか明るさとか、ユニークさとか示していただければと思います。ご協力お願いします。復活の創立記念講演会を一緒に作っていきましょう。

今年度から武蔵は次の百年に踏み出しました。もう一度言います。歴史を作るのは皆さんです。私は大いに期待をしています。

以上で、今年度始業式の挨拶を終わります。ご清聴有り難うございました。